

解析の進め方について

1 東北地方太平洋沖地震の再現解析

(1) 目的

危険物を大量に貯蔵する屋外タンク貯蔵所は、危険物が流出した場合の影響が大きいことから、過去に発生した地震を教訓に技術基準の見直しを重ね、東日本大震災でも、危険物の流出事故はほとんど報告されておらず、有識者を踏まえた検討会においても、現行基準は妥当なものとされている。

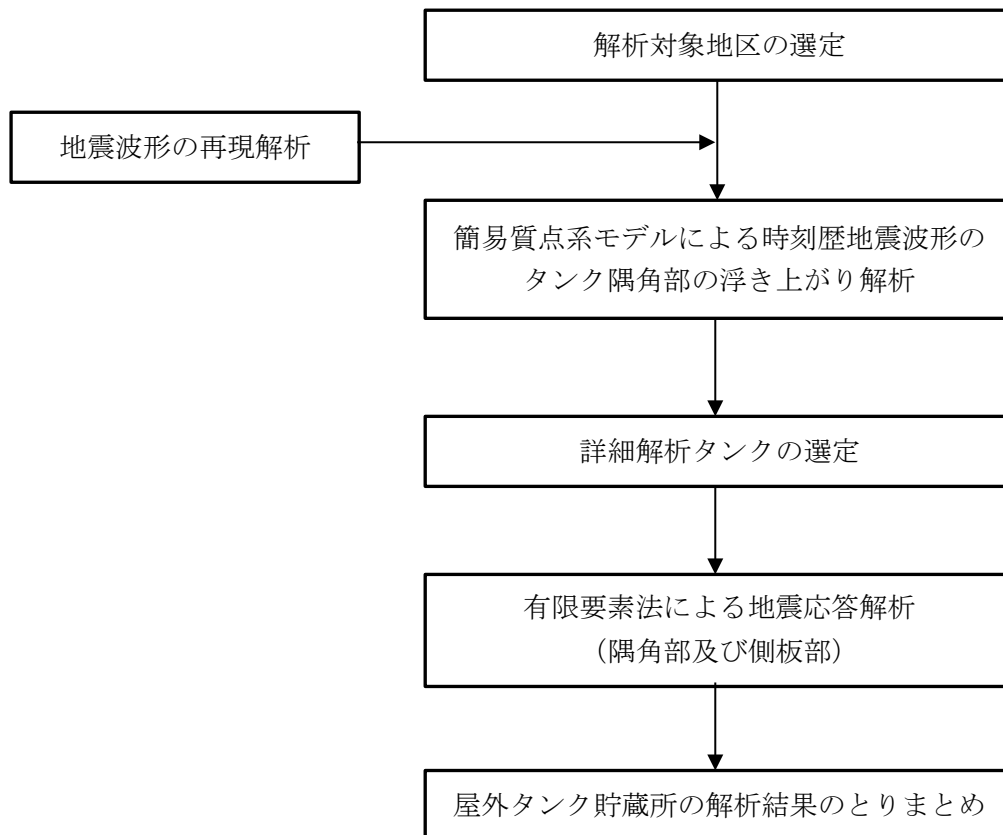
しかしながら、中央防災会議等において、従来の想定を超えるような南海トラフ地震の想定地震動の検討も進んでおり、新たな大規模な地震に対する屋外タンク貯蔵所の耐震安全性について確認を行う。

屋外タンク貯蔵所の短周期地震動による影響について、2節の南海トラフ地震の解析に際して、精度・信頼性の高い数値解析を行うためには、実際の現象に基づいて解析の前提となる定数等を適切に定める必要がある。このため、解析手法について一定の信頼性があることを確認するため、東北地方太平洋沖地震における屋外タンク貯蔵所の実態を再現できることを確認する。

東北地方太平洋沖地震の観測波形を用いた応答解析は数多く実施されており（例えば松岡ら（2012）による河川堤防における事例、福武・張（2012）による浦安市における事例）、解析手法については一定の妥当性が確認されていることから、本解析においてもこれらを踏まえた手法で解析を行う。

(2) 解析の進め方

以下のような手順により、屋外タンク貯蔵所の再現解析を進める。



2 南海トラフ地震の解析

(1) 目的

1節の目的に記載した理由により、中央防災会議から公開されている南海トラフ地震の想定地震動における屋外タンク貯蔵所の耐震安全性について確認を行う。

(2) 解析の進め方

以下のような手順により、屋外タンク貯蔵所の解析を進める。

